

# エコアクション 21 環境経営レポート

## 2022 年度版

(運用期間 : 2022 年 4 月~2023 年 3 月)



## 目次

1.会社概要	1
2.組織図・認証の範囲	2
3.製品紹介	3
4.環境への取り組み	4
5.環境経営方針	7
6.2022 年度環境経営目標達成状況と次年度目標・中長期目標	
6-1 2022 年度目標と実績及び次年度目標（本社）	8
6-2 中長期目標（本社）	9
6-3 2022 年度目標と実績及び次年度目標（営業部）	10
6-4 中長期目標（営業部）	11
7.2022 年度環境経営活動の主な計画及び、取組結果と次年度の取組	
7-1 本社の環境経営活動	
・二酸化炭素排出量削減	12
・廃棄物排出量の削減	13
・総排水量（水使用量）の削減	14
・廃棄物の原材料活用	14
・安全衛生委員会及び、5S 推進運動を通じた改善活動	15
・自社製品に関わる事項	15
7-2 営業部の環境経営活動	
・二酸化炭素排出量削減	16
・総排水量（水使用量）の削減	16
・コピー用紙使用量の削減	17
・グリーン購入の普及活動	17
7-3 その他の環境活動	18
8.関連法規への違反、訴訟等の有無	20
9.代表者による評価と見直しの結果と指示	21

# 1.会社概要・認証の範囲

## 名称及び代表者名

株式会社エコウッド  
代表取締役社長 石本 康治

## 所在地

本社・工場 福岡県北九州市若松区響町一丁目 12 番 1  
西日本営業所 福岡県北九州市若松区響町一丁目 12 番 1  
東京事務所 東京都港区高輪 2-14-9 三愛ビル 406  
関西営業所 大阪府大阪市港区市岡元町 3-10-16-705

## 環境管理責任者及び連絡担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 製造部 工場長 坂井 剛  
事務局 製造部 品質管理課 品質管理課長 住吉 真  
連絡先 TEL : 093-751-2424  
FAX : 093-751-2430  
MAIL : info@eco-wood.jp

## 事業内容

木材・プラスチック再生複合材の製造及び販売

## 事業規模

2022 年度

	本社		東京事務所	関西営業所
	工場	西日本営業所		
従業員数	50 人	2 人	5 人	1 人
延べ床面積	7,150m <sup>2</sup>		34m <sup>2</sup>	3m <sup>2</sup>

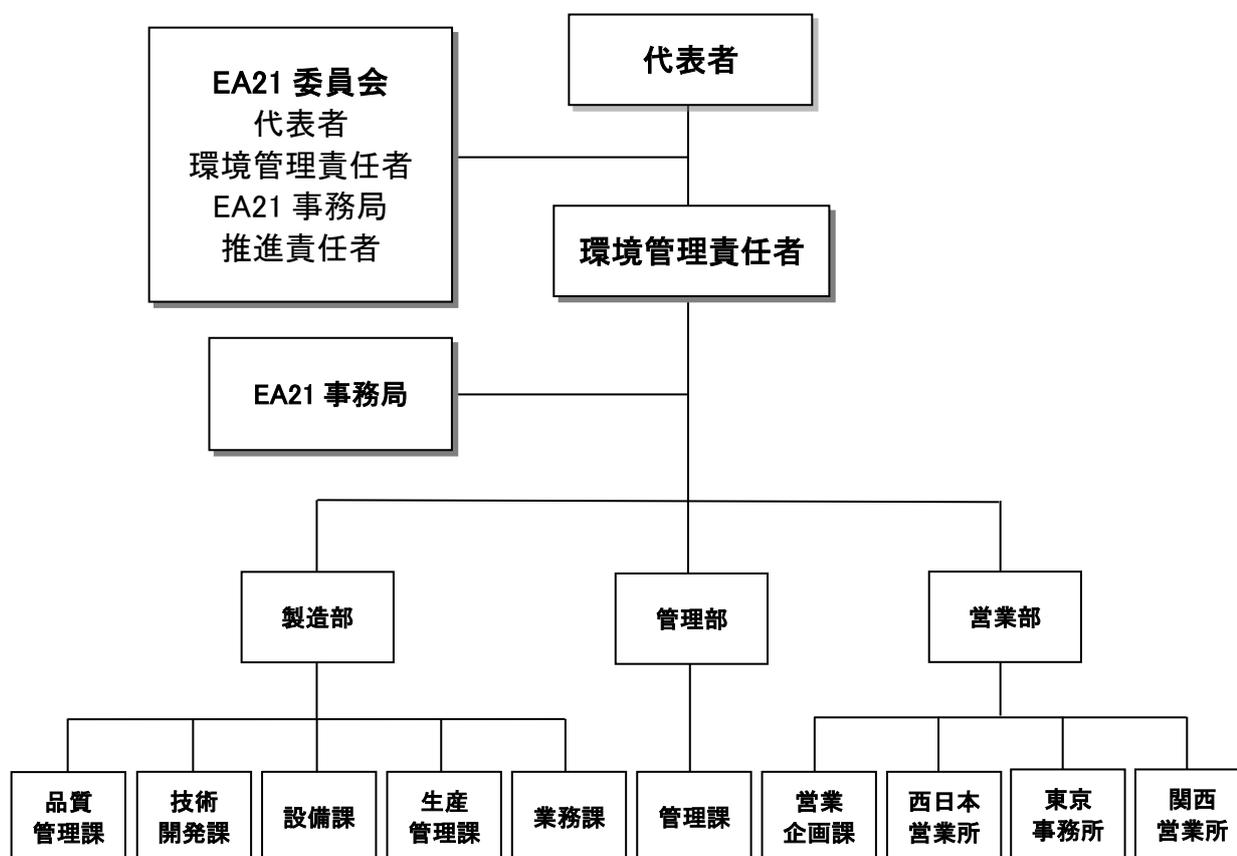
資本金 : 3 億円

## 事業年度

4 月～3 月

(今回の活動レポートの対象期間は、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

## 2.組織図及び認証・登録範囲



### 認証・登録範囲

本社及び西日本営業所、東京事務所、関西営業所における全事業活動。

### 対象外事業所及び事業活動

なし

### 3.製品紹介

#### 施工事例



戸畑区役所 観覧デッキ



北九州エコタウン サイン

#### エコMウッドとは・・・

人工木？合成木？ エコMウッドは 「木材・プラスチック再生複合材」  
WPRC(Wood Plastic Recycled Composite) です。



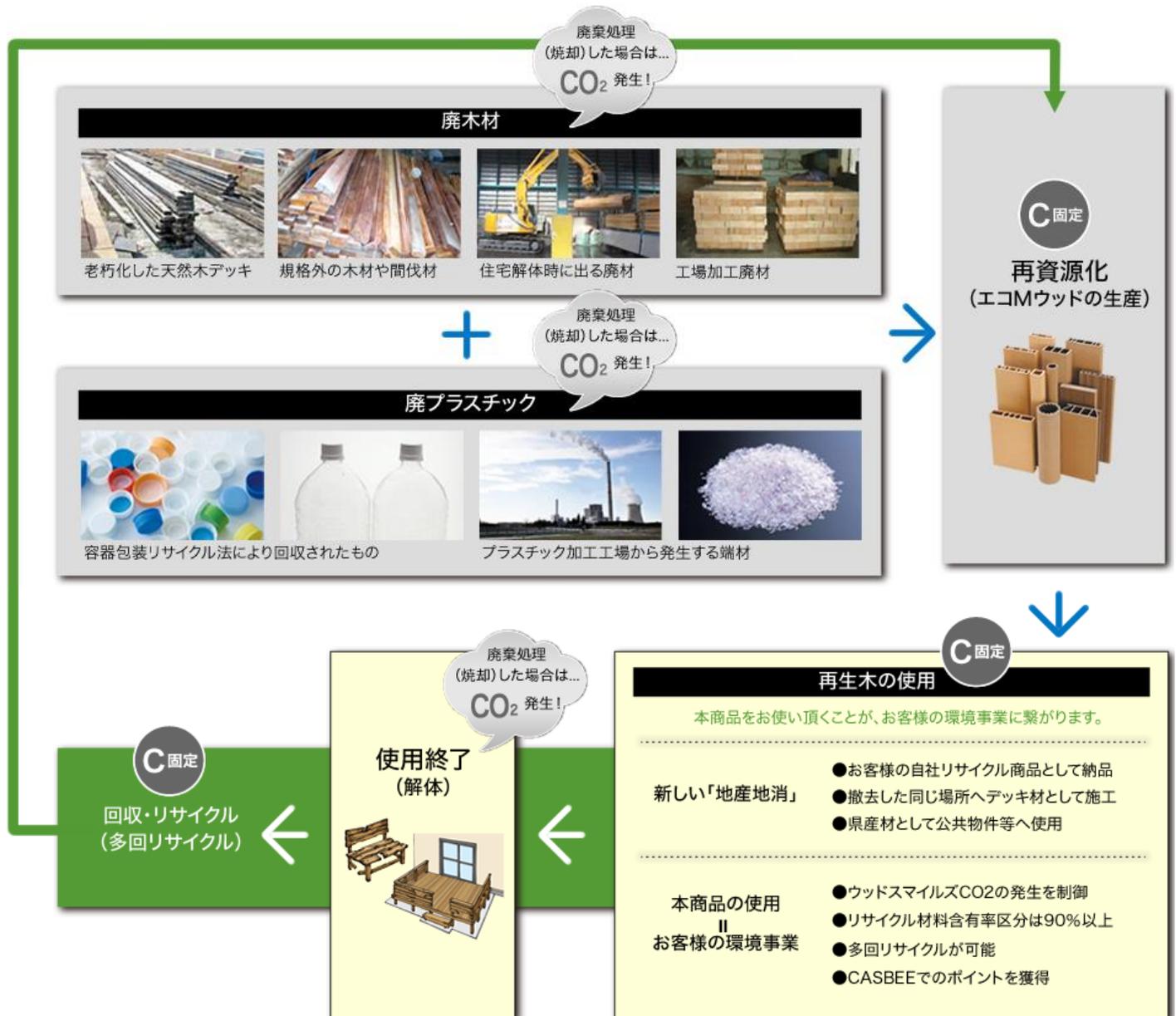
#### WPRC の特徴

- |          |   |
|----------|---|
| リサイクル原料  | ・多回リサイクル性<br>・環境にやさしい<br>・廃棄物が主な原料<br>・リサイクルによる省資源化、CO2 放出量削減   |
| 安全素材     | ・安心素材<br>・ホルムアルデヒド放散量、有害物溶出量(カドミウム、鉛、水銀、セレン、ヒ素、六価クロム)など J I S 規格をクリアー<br>・耐候性に優れる(腐れ、割れ、とげ、ささくれ等が発生しない) |
| デザインの自由度 | ・ライフサイクルコスト削減<br>・複雑な断面も用途に合わせて生産可能<br>・防腐防蟻処理などのメンテナンスが不要  |

## 4.環境への取り組み

### 地産地消

エコウッドの提案する循環型ライフサイクル《燃やさない》《埋めない》《捨てない》  
リサイクルを推進してきたエコウッドならではの新しい「地産地消」のご提案です。



## エコウッドの提案する地産地消

### (1) DECK TO DECK 再生事例

老朽化して危険な状態であった既設天然木デッキを撤去後、廃棄処分せずに再生木の原料として使用。その再生木をデッキ材として、再度同じ場所へ施工しました。

※ 防腐・防虫剤等の薬剤処理された木材は使用できません。



老朽化した既設天然木デッキの撤去



中間処理業者への搬入・粉砕



再生木として生まれ変わったデッキ材を元の場所へ施工

木材を「燃やさない」「埋めない」「捨てない」ことで炭素を固定化。CO2発生量の削減に貢献することができます。

### (2) 既設木材の再生事例

旧ビルの基礎として使用されていた松杭を廃棄処分せずに再生木の原料として使用。その再生木をデッキ材として、新ビルへ施工しました。

※ 使用実例のない樹種については、事前の試作確認が必要となります。



旧ビルに基礎として使用されていた松杭の撤去



中間処理業者への搬入・粉砕



再生木として生まれ変わった材料をデッキ材として使用

施設改修時に現場から出る廃木材は、建設リサイクル法により再資源化・削減が義務付けられています。

### (3) 規格外木材の再生事例

県産材を使用することを目的とし、県内の製材所から発生した規格外で使い道のない木材を再生木の原料として使用。

その再生木を送迎・展望デッキに使用しました。

※ 腐食の激しいもの、異物の混入したものは使用できません。



製材所から発生した規格外の木材



中間処理業者への搬入・粉砕



再生木として生まれ変わった材料をデッキ材として使用

「公共建築物における木材の利用の推進に関する法律」の施行にともない、公共建築物の木造化(国産材の利用等)が進められています。

### (4) 間伐材の再生事例

施設の建設予定地に植わっていたヒノキを伐採し、再生木の原料として使用。

その再生木を施設の外壁およびデッキ材として使用しました。

※ 高含水率の木材(生木等)については、事前の乾燥(含水率15%以下)が必要となります。



現地木材の伐採



現地業者での荒加工・乾燥



再生木として生まれ変わった材料を外壁材として使用

この土地に植わっていた木材を利用してできた施設であるというストーリー。建物自体がこの施設で遊ぶ(学ぶ)子供たちの教材となっています。

## エコウッドの環境性能を数値化してみました。

エコウッドの累計販売量〔2003~2022年⇒48,010 t〕で算出すると…

### 環境指標 1

建築・建設廃材を原料とした場合

⇒住宅 5,334 棟分の木材を利用!

木造住宅



5,334 棟分

### 環境指標 2

林地残材を原料とした場合

⇒8,258ha の森にある林地残材を利用!

東京ドーム



1,768 個分

### 環境指標 3

ペットボトルのキャップを原料とした場合

⇒100 億個のキャップを有効利用!

地球を



7.5 周分

# 環境経営方針

ECOWOOD Co.,Ltd.

制定：2014.8.1

改定：2018.5.11

## 基本理念

株式会社エコウッドは「限りある資源の再生」をテーマとし、「不均質な廃材から均質・高品質な製品へ」のあくなき追求と共に「環境負荷への低減」を掲げ、持続的発展が可能な社会の実現に向けて全従業員が努めます。

## 行動指針

- ・環境経営目標を定め、実施計画を立て、継続的改善に取り組みます。
- ・事業活動に関連する環境関連法規や条例を遵守します。
- 1. 製造・管理工程における
  - 二酸化炭素の排出量・廃棄物・水の使用量を削減する。
- 2. 生産性向上（合格率 単位時間当たり生産スピード）をはかる。
- 3. 安全衛生委員会、5S 推進運動を通じ、社内美化、及び事業活動内に潜むムダの「見える化」とその排除に努める。
- 4. 産業廃棄物、一般廃棄物の原材料活用を推進する。
- 5. グリーン購入法に基づく特定調達品目の活用及び普及活動に邁進する。



代表取締役社長 **石本 康治**

## 6. 2022 年度環境経営目標達成状況と中長期目標

### 6-1 2022 年度目標と実績及び次年度目標 (本社工場)

判定・・・○：達成 △：達成度 80% ×：達成度 80%未満

環境経営目標	単位	2014 年度 (基準年度)	2022 年度				2023 年度 目標	設定根拠	
			目標	実績	達成率	判定			
  二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /製品 t ※1	1,274	1,223 以下 (-4%)	1,268 (+0.5%) 3,542,717 (総量)	96.5%	△	1,249 以下 (-2.0%)	2022 年度実績を基に 目標見直し。	
	1-1 電力使用量の削減	kWh/製品 t	2,082	1,999 以下 (-4%)	2,072 (-0.5%)	96.5%	△	2,040 以下 (-2.0%)	2022 年度実績を基に 目標見直し。
 廃棄物総排出量の削減 (産業廃棄物)	kg/製品 t	36.8	30.5 以下 (-17%)	36.3 (-1.4%)	84%	△	30.5 以下 (-17.6%)	2022 年度目標に 再チャレンジ	
	廃棄物総排出量の削減 (一般廃棄物)	kg/月	68.6	25.0 以下 (-63.6%)	24.7 (-64.0%)	101.4%	○	24.3 以下 (-64.6%)	目標達成 中長期目標に従う。
 総排水量(使用量)の削減	m <sup>3</sup> /製品 t	1.82	1.25 以下 (-31.3%)	1.45 (-20.3%)	86.2%	△	1.25 以下 (-31.3%)	2022 年度目標に 再チャレンジ	
    自社製品に関する事項 ※2	歩留りの向上 【 % 】	基準年度比 %	基準	106.6%以上	103.0%	96.6%	△	104.1%以上	2022 年度実績を基に 目標見直し
	生産性の向上 (造粒グループ) 【 稼働率 % 】	基準年度比 %	基準(※)	105.2%以上	98.9%	94.0%	△	105.2%以上	2022 年度目標に 再チャレンジ
	生産性の向上 (成型グループ) 【 kg/時間・台 】	基準年度比 %	基準	106.2%以上	92.6%	87.2%	△	106.2%以上	2022 年度目標に 再チャレンジ
	生産性の向上 (加工グループ) 【 稼働率 % 】	基準年度比 %	基準	112.5%以上	107.8%	95.8%	△	112.5%以上	2022 年度目標に 再チャレンジ
 廃棄物の原材料活用	造粒 使用率 %	8.8	12 以上	10.6	88.0%	△	10 以上	2022 年度実績を基に 目標見直し。	
	成型 使用率 %	—	4 以上	4.08	102.0%	○	4 以上	目標達成。 中長期目標に従う。	
 安全衛生委員会・5S 推進 運動を通じた社内美化 ムダの見える化とその排除に 関する改善活動	改善 件数/ 月	—	1 以上	1	100%	○	1 以上	1 件/月以上を実施し 継続的に改善	

※1：電気の二酸化炭素実排出係数は、九州電力 2012 年度の 0.000612t-CO<sub>2</sub>/kWh を用いた。

※2：自社製品に関する事項の「基準年度比%」については、2014 年度の実績の数値を基準(100%)とする。但し、造粒グループの稼働率については 2015 年度実績を基準値とし設定。

※3：4 件/人・月に加え、内 2 件以上は設計事務所及びゼネコン設計部であること。

※ ガソリン使用量については、負荷が小さいため環境経営目標には設定していない。

## 6-2 中長期目標（本社工場）

環境経営目標		単位	2014年度 (基準年度)	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	設定根拠	
 	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /製品 t ※1	1,274	1,249 以下 (-2.0%)	1,236 以下 (-3.0%)	1,223 以下 (-4.0%)	段階的に改善	
	1-1 電力使用量の削減	kWh/製品 t	2,082	2,040 以下 (-2.0%)	2,020 以下 (-3.0%)	2,000 以下 (-4.0%)	段階的に改善	
	廃棄物総排出量の削減 (産業廃棄物)	kg/製品 t	36.8	30.5 以下 (-17.1%)	30.3 以下 (-17.6%)	30.1 以下 (-18.1%)	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善	
	廃棄物総排出量の削減 (一般廃棄物)	kg/月	68.6	24.3 以下 (-64.6%)	23.6 以下 (-65.6%)	22.9 以下 (-66.6%)	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善	
	総排水量(使用量)の削減	m <sup>3</sup> /製品 t	1.82	1.25 以下 (-31.3%)	1.23 以下 (-32.4%)	1.21 以下 (-33.5%)	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善	
   	自社製品に関する事項	歩留りの向上 【 % 】	基準年度比 %	102.6%以上	104.1%以上	104.3%以上	104.4%以上	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善
		生産性の向上 (造粒グループ) 【稼働率 %】	基準年度比 %	103.3%以上	105.2%以上	105.3%以上	105.4%以上	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善
		生産性の向上 (成型グループ) 【kg/時間・台】	基準年度比 %	107.3%以上	106.2%以上	107.3%以上	108.3%以上	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善
		生産性の向上 (加工グループ) 【稼働率 %】	基準年度比 %	113.3%以上	112.5%以上	113.3%以上	114.1%以上	2022 年度実績より目標見直し 以降段階的に改善
	※2 廃棄物の原材料活用	造粒造 使用率 %	8.8	10.0 以上	10.0 以上	10.0 以上	2022 年度実績より目標見直し 一定の水準となったことを受け目 標値を据え置く	
		成型造 使用率 %	—	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上	2022 年度実績より目標見直し 一定の水準となったことを受け目 標値を据え置く	
	安全衛生委員会・5S 推 進運動を通じた社内美化 ムダの見える化とその排除 に関する改善活動	改善件 数/月	1	1 以上	1 以上	1 以上	1 件/月以上を実施し、継続的 に改善	

※1：電気の二酸化炭素実排出係数は、九州電力 2012 年度の 0.000612t-CO<sub>2</sub>/kWh を用いた。

※2：自社製品に関する事項の「基準年度比%」については、2014 年度の実績の数値を基準(100%)とする。但し、造粒グループの稼働率については 2015 年度実績を基準値とし設定。

※3：4 件/人・月に加え、内 2 件以上は設計事務所及びゼネコン設計部であること。

※ ガソリン使用量については、負荷が小さいため環境経営目標には設定していない。

## 6-3 2022 年度目標と実績及び次年度目標 (営業部)

### ■営業部(東京事務所、関西営業所、西日本営業所)

判定・・・○：達成 △：達成度 80% ×：達成度 80%未満

環境経営目標		単位	2016 年度 (基準年度)	2022 年度				2023 年度 目標	設定根拠		
				目標	実績	達成率	判定				
	二酸化炭素排出量の削減	東京	kg-CO <sub>2</sub> /月 ※1	118,026	88,638 以下 (-24.9%)	79,711 (-32.5%) 957 (総量)	111%	○	88,164 以下 (-25.3%)	昨年度目標をクリアできたため 今期は更なる削減に取り組む	
	1-1 電力使用量の削減	東京	kWh/月	249	187 以下 (-24.9%)	168,167 (-32.5%)	111%	○	186 以下 (-25.3%)	昨年度目標をクリアできたため 今期は更なる削減に取り組む	
	総排水量(使用量)の削減	東京+関西	m <sup>3</sup> /人・月	0.7126 ※3	0.7055 以下 (-1%)	0.6448 (-9.5%)	109%	○	0.6983 以下 (-2%)	交替勤務から通常勤務体制となる為 昨年度の目標よりも 1%削減に取り組む	
	コピー用紙使用量の削減 (東京事務所+関西営業所)	東京	枚/月	1,583	1,344 以下 (-15.1%)	1,144 (-27.7%)	118%	○	1,328 以下 (-16.1%)	今期は更なる削減に取り組む	
	グリーン購入の普及活動	PR 件数	東京	件数/人・月・事業所 ※2	12	15 以上	15	100%	○	13 以上	人員減となるが、コロナ禍も明けたため 西日本と同じ 13 件とする。
			関西		4	5 以上	9	172%	○	9 以上	昨年度実績を目標値とする。
			西日本		8	10 以上	13	107%	○	13 以上	昨年度実績を目標値とする。
		折込件数	東京	件/年・事業所	8	11 以上	14	127%	○	※4 販売実績 6.0P/年	3.0P/年・人とする。
			関西		4	7 以上	12	171%	○	※4 販売実績 3.0P/年	3.0P/年・人とする。
			西日本		6	8 以上	9	113%	○	※4 販売実績 6.0P/年	3.0P/年・人とする。

※1：電気の二酸化炭素実排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 2017 年度の 0.000474t-CO<sub>2</sub>/kWh を用いた。

※2：件/人・月に加え、内 2 件以上は設計事務所及びゼネコン設計部であること。

※3：2021 年度までの活動結果より、2021 年度実績を基準年度にし、維持目標とする。

※4：グリーン購入の普及活動 折込実績については、販売実績を元に所定の係数をかけた数値を販売実績ポイントとして監視する。

※ ガソリン使用量については、負荷が小さいため環境経営目標には設定していない。

## 6-4 中長期目標（営業部）

### ■営業部(東京事務所、関西営業所、西日本営業所)

環境経営目標		単位	2016年度 (基準年度)	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	設定根拠		
	二酸化炭素排出量の削減	東京	kg-CO <sub>2</sub> /月 ※1	118.026	88.164 以下 (-25.3%)	87.693 以下 (-25.7%)	87.257 以下 (-26.1%)	段階的に改善	
	1-1 電力使用量の削減	東京	kWh/月	249	186 以下 (-25.3%)	185 以下 (-25.7%)	184 以下 (-26.1%)	段階的に改善	
	総排水量(使用量)の削減	東京	m <sup>3</sup> /人・月	0.7126	0.6983 以下 (-2%)	0.6912 以下 (-3%)	0.6841 以下 (-4%)	段階的に改善	
	コピー用紙使用量の削減 (東京事務所)	東京+関西	枚/月	1,583	1,328 以下 (-16.1%)	1,312 以下 (-17.1%)	1,297 以下 (-18.1%)	段階的に改善	
	グリーン購入の普及活動	PR 件数	件数/人・月・事業所	4(※2)	東京	13(※2) 以上	13(※2) 以上	13(※2) 以上	一人当たり1件/月の継続
		関西			9(※2) 以上	9(※2) 以上	9(※2) 以上	一人当たり1件/月の継続	
		西日本			13(※2) 以上	13(※2) 以上	13(※2) 以上	一人当たり1件/月の継続	
	販売実績	東京	P/年・事業所 ※3	-	6.0P/年 以上	7.0P/年 以上	8.0P/年 以上	2023年度から折込件数から販売実績ポイントへと切り替え	
		関西			3.0P/年 以上	3.5P/年 以上	4.0P/年 以上	2023年度から折込件数から販売実績ポイントへと切り替え	
		西日本			6.0P/年 以上	7.0P/年 以上	8.0P/年 以上	2023年度から折込件数から販売実績ポイントへと切り替え	

※1：電気の二酸化炭素実排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 2017年度の0.000474t-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。

※2：4件/人・月に加え、内2件以上は設計事務所及びゼネコン設計部であること。

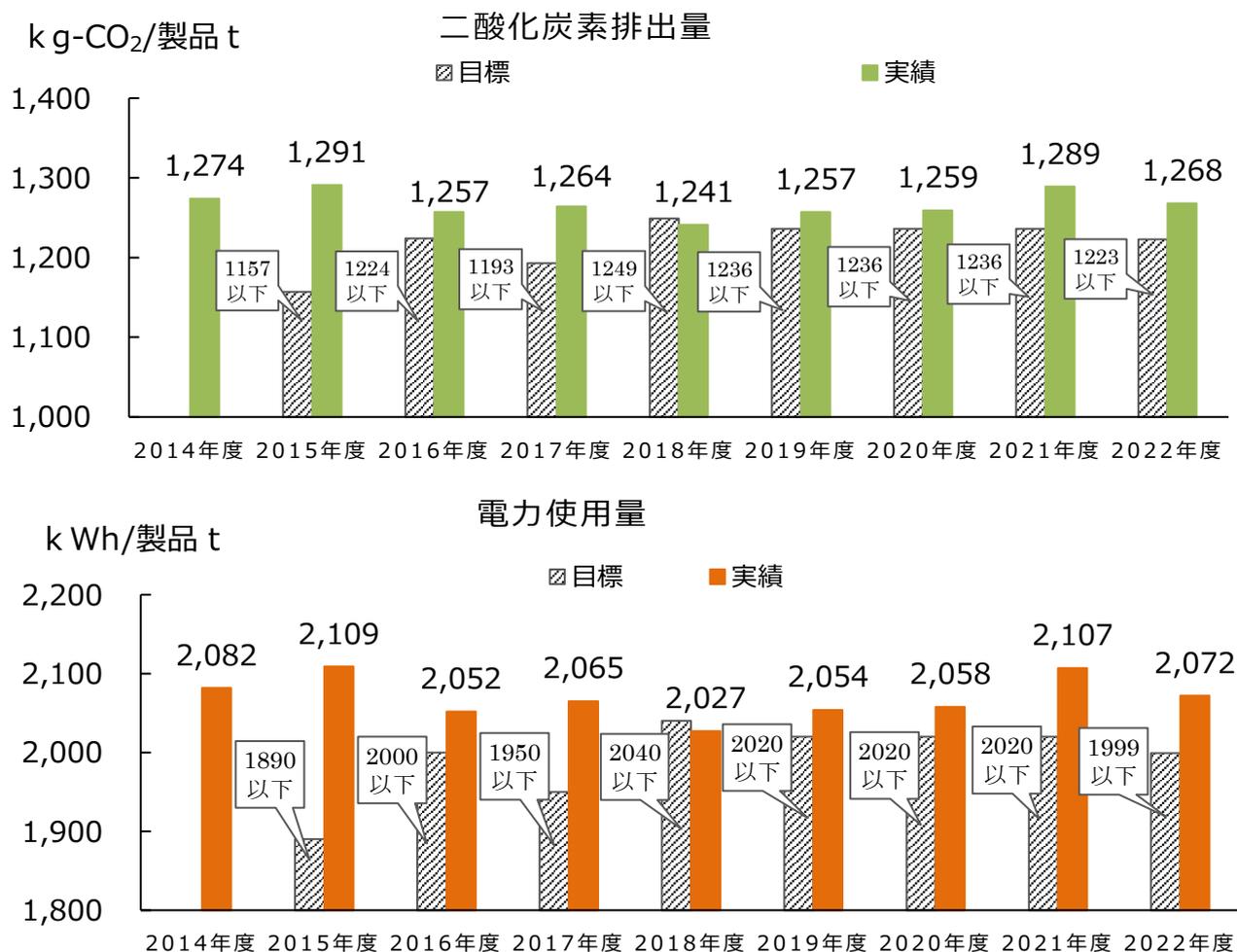
※3：グリーン購入の普及活動 折込実績については、販売実績を元に所定の係数をかけた数値を販売実績ポイントとして監視する

※ ガソリン使用量については、負荷が小さいため環境経営目標には設定していない。

## 7. 2022 年度環境活動の主な計画及び、取組結果と次年度の取組

### 7-1 本社の環境経営活動

・二酸化炭素排出量の削減(電力使用量の削減)



#### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：成型チラーの省電化、IOT による先行管理、異常検知水平展開、故障による停止時間の削減 等  
 推進責任者：坂井工場長

#### [今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

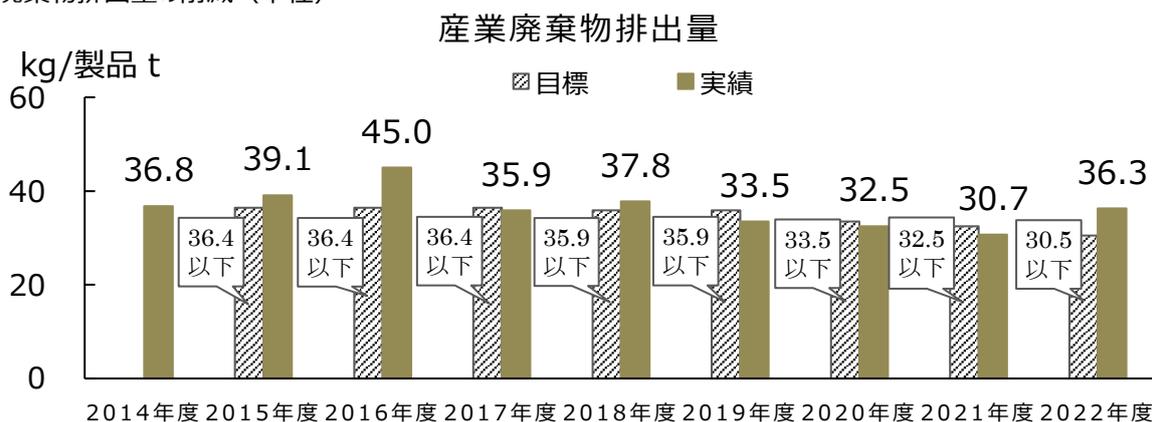
通期で見ると 96%の達成率。二層発泡品等の必要設備の多い製品へシフトしたこと、などが挙げられる。

#### [次年度の取組]

二層発泡製品の生産性向上策を実施して全体の生産性アップに注力する。

## ・廃棄物総排出量の削減

### (1)産業廃棄物排出量の削減（本社）



#### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：処分していた粉碎品の有価販売、各工程廃棄物の再原料化、加工屑の分別回収による再原料化 等。

推進責任者：岩本部長

#### [今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

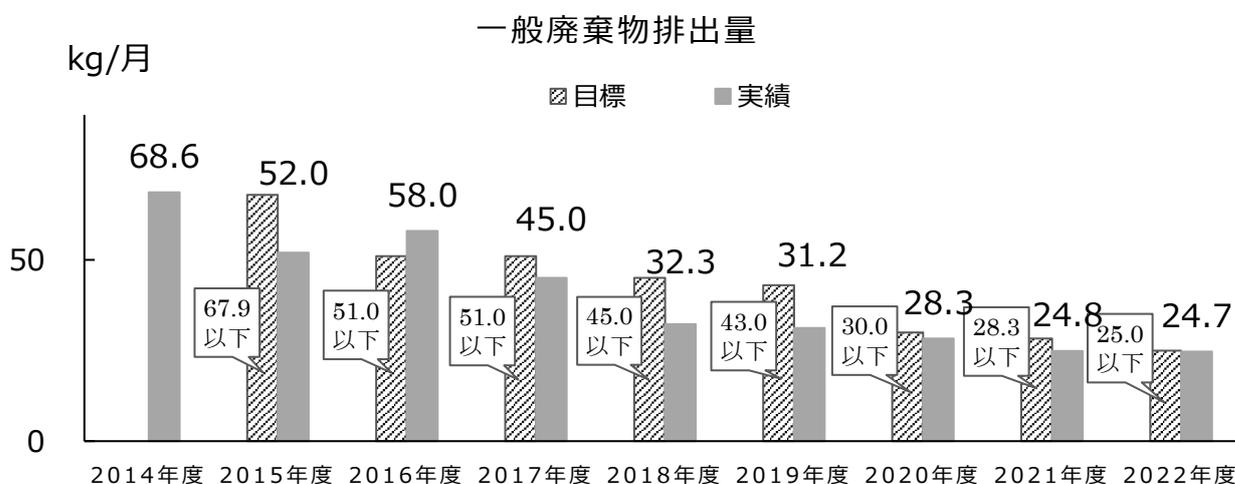
今年度は第二 Q、第四 Q で長期滞留品の処分を行ったことにより、目標の未達となった。再原料化については、昨年度と同様、生産管理課各 G での各活動の効果があらわれ、原材料費低減にも貢献した。

継続している粉碎品の有価販売については、各所で検討するも実施に至らず、使用用途を広げ販売先を調査する。

#### [次年度の取組]

造粒、成型の生産効率向上の為、製品の統廃合を、また成型合格率向上により、廃棄物削減に取り組む。

### (2)一般廃棄物排出量の削減(本社)



#### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：コピー用紙使用量削減(裏紙利用、両面コピー、縮小印刷等)、不要な日報調査・削減 等。

推進責任者：岩本部長

#### [今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

目標達成。人員増があったものの、何とか目標を達成できた。紙類の分別・リサイクル、裏紙活用の徹底、書類のペーパーレス化等の定着と、社員の意識向上の結果と考える。

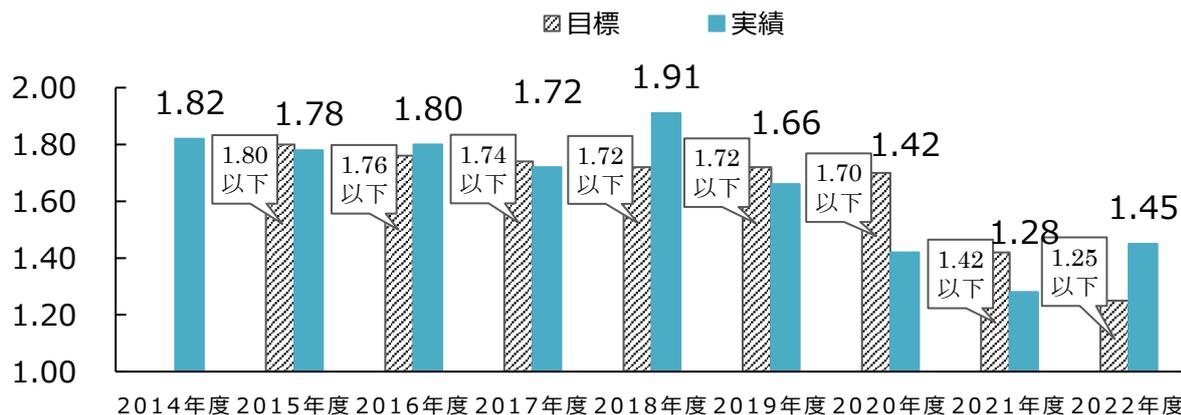
#### [次年度の取組]

更なる人員増を予定しており、目標値の見直しを行う。取組の内容は、昨年度同様の活動の徹底により、排出量の削減を図る。

・総排水量の削減

m<sup>3</sup>/製品 t

総排水量



[主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：循環水設備の維持管理、水道メーターの監視 等。

推進責任者：坂井工場長

[今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

目標未達。

昨年度と比較すると、機器の不具合による使用量の増加が多かった。また、二層発泡製品の増産の影響も考えられる。

[次年度の取組]

段階的な配水配管の更新も検討、日々の水使用量の監視の継続、及び今年度の不具合発生個所の再発防止、使用量削減を図る。

・廃棄物の原材料活用

[主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：再原料投入量 造粒 12%以上 成型 4%以上

推進責任者：坂井工場長

[今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

造粒はわずかに未達、成型は目標達成した。

[次年度の取組]

発生した不適合品を滞留せず処理することを徹底する。

安全衛生委員会及び、5S 推進運動を通じた改善活動

[主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：社内美化に関する改善活動。ムダの見える化とその排除に関する改善活動。

推進責任者：坂井工場長

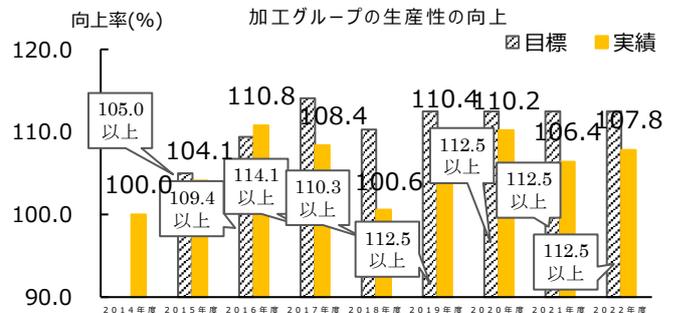
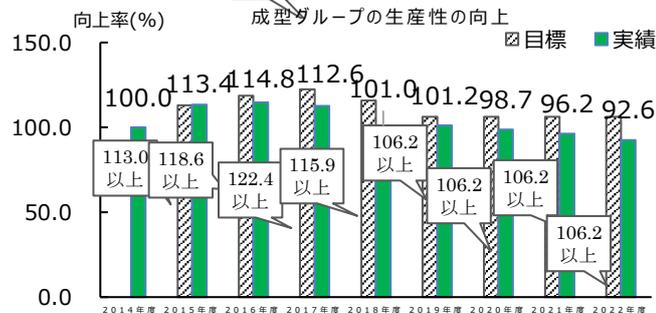
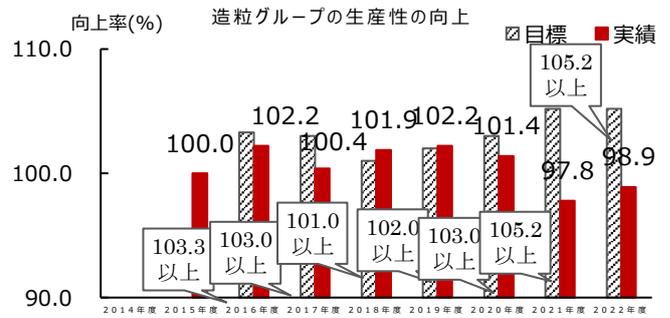
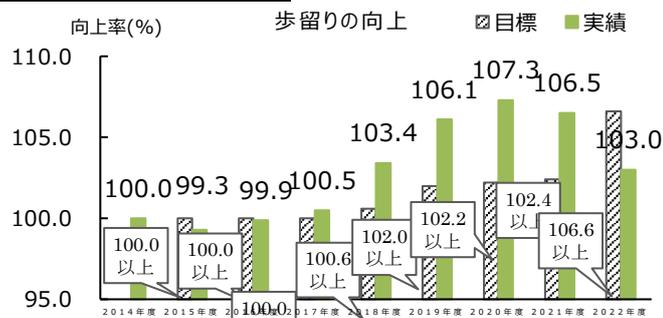
[今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

下屋の整理整頓及び出荷製品置場確保については不完全ではあるが出来たのは評価できる。

[次年度の取組]

排煙問題の解決に今期は注力する。

## ・自社製品に関わる事項



### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：再原料化の推進。造粒マイプラント活動推進、成型 新型製品の安定生産と吐出量のアップ、加工 停止時間の原因分析と対策実施 等。

推進責任者：坂井工場長

### [今年度実績の評価]

端的に高付加価値製品群が増えそれに伴い生産難易度も上がったが、それに対し生産体制の改善が追い付かず結果的に全ての項目で計画未達となった。

### [次年度の取組]

歩留まりについては、特に成型二層品の合格率を上げる対策を重点的に実施する。

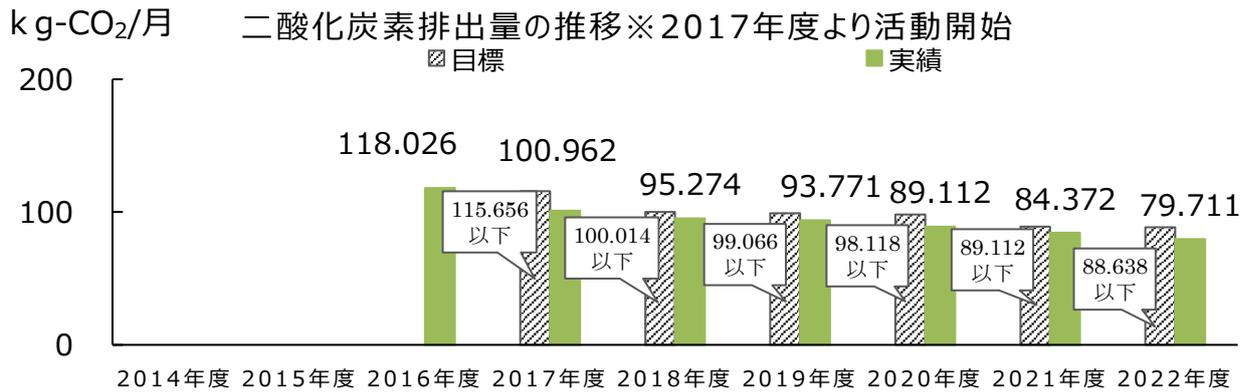
造粒 G：ホ°レーター教育とマイ°プラント活動による機械停止時間の削減を図る。

成型 G：ホ°レーター教育と吐出の上がる新規原料の導入検討を行う。

加工 G：新設備（自動投入装置、二次加工装置 等）の導入検討を行う。

## 7-2 営業部の活動

### ・二酸化炭素排出量の削減(東京事務所)



#### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：不在時、昼休みの消灯。クールビズ・ウォームビズの推進 等。

推進責任者：白崎所長

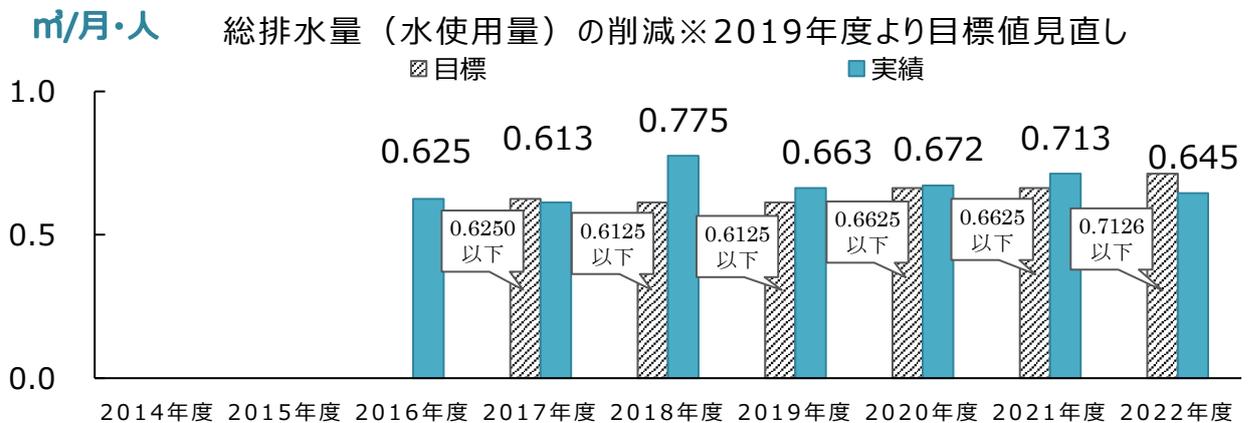
#### [今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

夏場の猛暑時期にエアコンの使用量が上がり、目標数値をクリアできなかったが、そのほかの月で大幅に目標をクリアして通年で対目標値 111%の削減が出来た。所員の節電活動の賜物であると評価する。

#### [次年度の取組]

削減活動を継続し、目標を新たに設定して取り組む。

### ・総排水量（水使用量）の削減(東京事務所)



#### [主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：帰宅時のトイレ止水確認、食器洗い時の無駄な流水禁止 等。

推進責任者：白崎所長

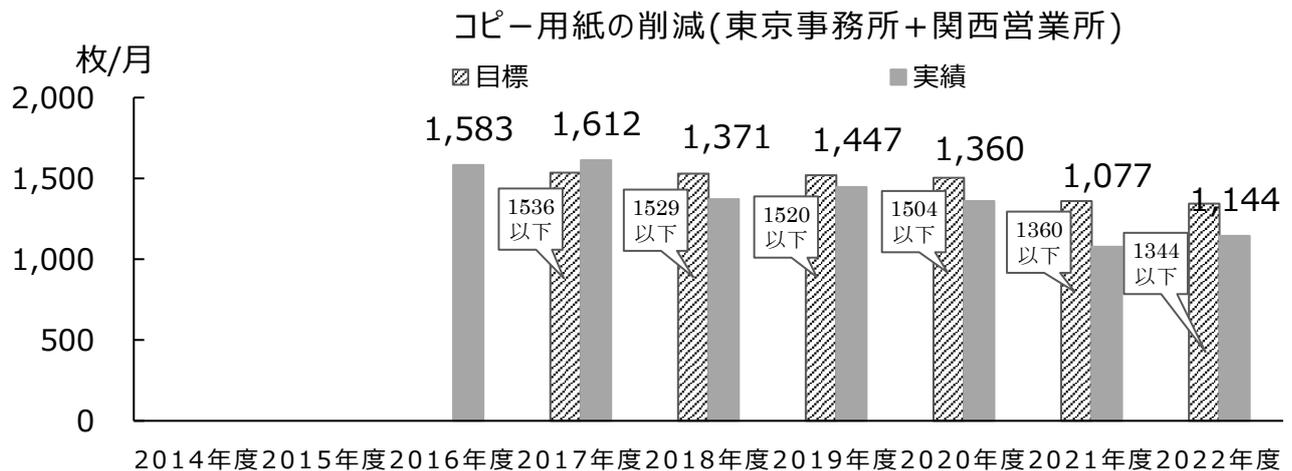
#### [今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

通年で対目標値 111%の達成は所員の節水活動が実を結んだと評価出来る。また、通年で毎月の水道の使用量がほぼ変わらなかったことから無駄な流水も無くなり最低限の使用量に近づいたと推測される。

#### [次年度の取組]

限度近くまで節水活動が出来てきている。次年度は対前年からの削減にチャレンジする。

・コピー用紙使用量の削減（東京事務所+関西営業所）



[主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：コピー用紙使用量削減(裏紙利用、両面コピー、縮小印刷等)、印刷物の削減 等。

推進責任者：白崎所長

[今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

全ての月で目標をクリアし、通年で対目標値 117%の削減と目標を大きくクリアできた。

日々の活動の成果が出たと評価出来る。

[次年度の取組]

削減活動を継続し、目標を新たに設定して取り組む。



不要書類の裏紙活用

・グリーン購入の普及活動

当社製品「エコMウッド」がグリーン購入法に基づく「特定調達品目」に指定されたことを受け、各営業所にて、普及活動をE A 21 の取組として実施。

グリーン購入法普及リーフレットの活用

[主な環境経営計画と実施体制]

環境経営計画：グリーン購入取得の PR(顧客、役所、設計)

推進責任者：山本部長

[今年度環境経営計画の結果とその実績の評価]

PR 件数と折込件数の目標達成率は下記の通りで、コロナ禍で顧客への訪問が制限された中でのこの数字は評価できる。

- ・本社（西日本営業所）PR 107% 折込 112%
- ・東京事務所 PR 102% 折込 127%
- ・関西営業所 PR 172% 折込 171%

[次年度の取組]

折込件数では無く、売上に繋がる(数量など)指標を検討したい。

## 7-3 その他の環境への取組

・「2020 北九州 SDGs 未来都市アワード」に於いて、ESD 賞(企業部門)を受賞しました。

### 北九州 SDGs 未来都市アワード

北九州市は2018年6月に国の「SDGs 未来都市」に選定され、SDGsのトッパンナーとして、市全体でSDGsの取組みを推進していくことが求められています。2019年度よりスタートした本アワードは、SDGsやESDの活動を顕彰することで、SDGsやESD活動者の意欲向上とさらなる推進を図る事を目的としています。



SDGs(持続可能な開発目標)  
地球規模の課題に対応するため、2015年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された2030年までの国際目標。

エコウッドは2020年度より企業理念とSDGsの実現に向けたEEG(エコウッドエコロジカルグローバルビジョン)の運用をスタートしました。今回、その活動が評価され「ESD賞」を受賞しました。



2021年3月10日 エコウッド本社にて

北九州市環境局総務政策部 峠谷課長より表彰状が授与されました。



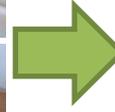
### ESD 賞

SDGs 達成にあたり、他者のモデルとなる優れた活動のうち、特に教育や人材育成の観点において極めて優れた活動と認められるもの

### 選考委員からいただいたコメント(評価する点)

- ・循環型まちづくりをベースに幅広く取り組んでいるのがわかる。
- ・企業活動そのものがSDGsの実現に向けた活動となっている。
- ・ニッチでありながら高い理念を形にした商品コミュニケーションである。
- ・自社のSDGsのビジョンやターゲットを設定している点が良い。
- ・着眼点が素晴らしく、循環型社会を目指した取組みが明確である。
- ・独自性を活かして北九州らしさをアピールできている。
- ・国内外から多数の見学者やインターンを受入れ、建設資材のリサイクル、間伐材や倒木など地産地消に貢献する原料の積極活用などSDGsやESDに貢献する様々な活動を行っている。

・ペットボトルキャップの回収



ペットボトルのキャップを回収し

回収ボックスへ

廃棄物⇒子どもワクチン支援へ

## 8. 関連法規への違反、訴訟等の有無

法律名等	適用内容 規制基準等	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	収集運搬処分は許可の受けた一般廃棄物収集 運搬業者並びに一般破棄物処分業者に委託すること 市町村以外の他人に委託しないこと	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	飛散防止対策を講じること 見やすい場所に掲示を設けること(大きさ 60×60cm 以上) (表示: 保管する廃棄物の種類、管理者、連絡先等) 事業場の外に保管するときはあらかじめ都道府県知事に届け出ること 非常災害の場合は保管開始後 14 日以内に届け出ること	○
	管理票の交付(発行): 廃棄物の種類ごと、運搬先ごと 管理票の記録事項: 廃棄物の種類、荷姿、最終処分を行う所在地など 交付から 90 日以内(運搬、処理処分)及び 180 日以内 (最終処分)に管理票の写しが未返却の場合、照合確認と共に知事に届け出る。 管理票の保管: 5 年間保存	○
	管理票の交付等の状況の報告 毎年 6 月 30 日までに前年度 1 年間の状況報告を環境局環境監視部産業廃棄物対策課へ提出要	○
	収集運搬業者及び処分業者との書面による委託契約 委託契約書には許可書の写しの添付 委託契約書の保管: 5 年間保存	○
騒音規制法	工事開始 30 日前までに特定施設の設置の届出 特定施設の数等の変更は工事開始 30 日前までに変更届出	○
	第 4 種区域 敷地境界線上において夜間 23 時から 6 時は 65dB 以下 その他は 70dB 以下	
消防法	設備基準(消火器、自動火災報知機、屋外消火栓設備) 総合点検: 1 回/年 機能点検: 2 回/年 検査点検結果報告: 1 回/3 年	○
労働安全衛生法 事務所衛生基準規則	気積(10 m <sup>3</sup> /1 人)、換気、温度、空調、照明、掃除等の実施、廃棄物の分別	○
改正省エネ法	エネルギー管理指定工場(熱と電気を合算して規制) 第二種: 1500kl 以上 原油換算量kl=発熱量(10GJ)×0.258  エネルギー管理統括者の選任 エネルギー管理者の選任 エネルギー管理員の選任 定期報告の提出期限は翌年度の 7 月末日 九州経済産業局資源エネルギー環境部エネルギー対策課へ提出要	○
フロン排出抑制法(改正フロン法)	指定製品及び特定製品の管理者の責務。 当該特定製品に使用されるフロン類の管理の適正化に努める。 第 1 種特定製品のそばに著しい振動を発生する機械等を置かない。点検・修理するスペースを空けておく。 全ての第 1 種特定製品について簡易点検を 3 ヶ月に 1 回以上実施。 7.5~50kw 未満は、定期点検(知見を有するものが実施)を 3 年に 1 回以上、50kw 以上は 1 年に 1 回以上。 1000t-CO <sub>2</sub> 以上の漏えいは届が必要。 ※第一種特定製品の廃棄等の際には、 ・第一種フロン類充填回収業者に回収を依頼すること。また、その際、回収依頼書の交付等(行程管理票)を行うこと。 ・業者より、引取証明書、再生証明書/破壊証明書の送付を受け保管すること。	21 年度より 非該当 (チャラー更新 により)
毒物及び劇物取締法	・毒物又は劇物の名称、成分及びその含量を表示すること。 ・保管場所(容器含む)施錠できること。	○

環境関連法の遵守状況をチェックの結果違反はありませんでした。

尚、関係当局より違反の指摘はありませんでした。

## 9.代表者による全体の評価と見直しの結果と指示

### 環境経営システムが有効に機能しているか

世界中で気候変動が実感(集中豪雨、山火事等)される中、2050年カーボンニュートラルに向かい各国で活動が具体化されている。国内企業においても、再エネ・脱炭素化へのESG投資活動、特にGHG(CO<sub>2</sub>)排出の見える化(モニタリング→目標設定・対応計画→実行・管理)が進みつつある。弊社においても昨年度は電力料金・諸資材の高騰、欠品とコロナ禍と合わせ大変な一年間であったが、品質方針として「ここから未来へ新たな一歩 EEG(「I」ウット「I」ジ「カ」グロ「バ」ル「ビ」ジョン)」を掲げ、事業計画には未達であったが、生産量確保は数年来最高で、EA21、SDGs 展開、資源(廃材)活用の環境経営システムは有効に機能している。

### 環境への取組は適切に実施されているか (※前回指示への取組結果含む)

弊社創業目的の一つは循環型社会の形成にあり、廃木材・廃プラスチック活用によるCO<sub>2</sub>排出量抑制は大きな使命との認識の中、創業以来累計で10万t(約4万世帯排出相当)を超えた。CFPによるCO<sub>2</sub>排出量把握においては、原材料調達(25%)、生産工程(33%)、廃棄・リサイクル工程(42%)であり、本製品の長寿命化がLCCO<sub>2</sub>削減に最適であることから長寿命化商品「二層発泡」の開発・普及活動の推進を行っている。生産工程(造粒G成型G)において、今年度目標には未達であったが、電力使用量(kWh/t)は確実に減少している。来期は未達であった生産性(合格率、生産スピード)向上により、さらなる電力(CO<sub>2</sub>排出)削減を推進する。

### 環境経営方針変更の必要性

現在、環境経営方針の変更は必要なしと判断する。

### 環境経営目標変更の必要性

目標項目は変更せず、目標値を実績に基づき変更した。

### 環境活動計画変更の必要性

長寿命化製品開発、普及活動と同時に、使用後製品の再原料化(水平リサイクル)及び環境ラベル(エコリーフ)での見える化を併行して行う。

### 環境経営システム変更の必要性

体制変更の必要なし。EA21 目標値達成すべく生産性向上の教育。



環境経営活動レポート 2022 年度版  
発行：2023 年 7 月 14 日  
株式会社エコウッド EA21 事務局

ECOWOOD Co.,Ltd.

---

本社・工場：〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町1丁目12-1  
西日本営業所 tel 093-751-2424 fax 093-751-2430

関西営業所：〒552-0002 大阪府大阪市港区市岡元町3-10-16-705  
TEL：090-2850-7212 FAX：03-6277-3693

東京事務所：〒108-0074 東京都港区高輪2-14-9 三菱ビル406  
tel 03-6277-3692 fax 03-6277-3693